



▲今回配備された救急車。有事の際に駆け付けます！

ま 高規格救急車の更新配備 まちの救急車が新しくなりました！

2月22日(水)、新しい高規格救急車が消防本部へ更新配備され、運用が開始されました。高規格救急車とは救急救命士が処置を行うためのスペースや資器材が搭載された高機能・高性能な救急車で、傷病者に走行時の振動を与えないように、衝撃を緩和する装置のついた担架等を装備しています。この車両は、防衛省の補助を活用して導入され、車両側面には防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレム(右図)が施されています。



こ とうなんにほんご おでかけサロン とばを超える笑顔の地域交流

3月25日(土)、第1回目の「とうなんにほんご おでかけサロン」を開催しました。外国人学習者さんが15人、ボランティアさんが8人参加してくれました。当日は、岸本チューリップ園や岸本集落活動センターかっぱや、西川花公園を見学し、地域の人ともたくさんおしゃべりしました。参加した学習者さんは、アメリカ、インドネシア、ベトナム、イギリスなど国籍はさまざまでしたが、みんな熱心に勉強して、交流を深めることができました。



▲岸本チューリップ園にて。笑顔から楽しさが伝わります



妖 赤岡 狐の嫁入り行列 美しい狐火ちょうちんがまちを彩る

3月25日(土)、狐に扮した人々がちょうちんを片手に、赤岡のまちを練り歩く「狐の嫁入り行列」が行われました。行事は絵金蔵企画では5回目で、今回は赤岡を代表する絵師、絵金の生誕210周年を祝って開催されました。当日は雨模様の中、5年ぶりの赤岡ならではの雰囲気味わおうと、たくさんの方が訪れました。行進が始まる頃には雨も上がり、薄暗い街並みを狐たちがゆったりと歩き始めます。時々立ち止まっては、狐の本性を現すかのように姿勢を低くして前足を差し出して静止。その様子は妖しくも美しく、絵金屏風から抜け出てきたかのような世界観を醸し出していました。



狐シールもらえたよ！
マスクにはって
狐の仲間入り♪



人 の色はみんなグラデーション。自分らしさに自信をもって！

3月19日(日)、のいちふれあいセンターで香南市パートナーシップ宣誓制度施行記念講演会が行われ、講師にブルボンヌさんをお迎えしました。講演後にセクシャルマイノリティについてインタビューをさせていただきました。その一部をご紹介します！



ブルボンヌさん

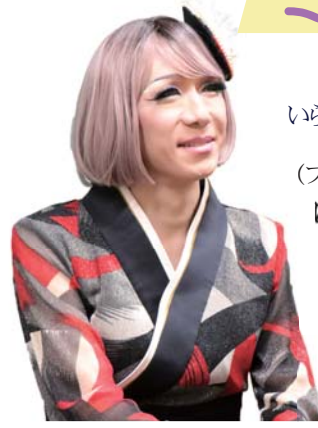
ゲイ雑誌「パティ」主幹編集者、女装パフォーマンス集団の主宰を経て、ライター・タレント活動を開始。現在NHK「ハートネットTVフクイチ」などLGBTQ+や多様性を扱う番組に多数出演中。

LGBTQ+…定義が多すぎて頭が追いつかない！

(編集部)「ゲイ」「レズビアン」…この人はどれに当てはまるんだろう？と定義に凝り固まってしまって、その人自体を理解することを見失ってしまう、という方も多いと思います。広く分かりあうためにはどんなことが必要だと思いますか？

(ブルボンヌさん)一旦線引きをすることで意味をわかってもらえるから、定義も大事だと思う。そのうえで、100%あてはまらないこともあるっていうのを少しずつ知ってもらえたらと思う。私も昔はノンバイナリー(男性・女性、どちらの性自認もない方)について「どちらでもないって何？」って思ったこともある。当事者でさえそうなんだから知らない方は余計分からないよね。ギャルならギャル、母なら母、みたいに記号化せずに色んなギャルがいるし色んな母がいる。性だけじゃなく、生はみんなグラデーション。伝えていくことが大事だから、そういったことを笑いを交えながら柔らかく伝えていきたいなと思う。

ブルボンヌさんの思うパートナーシップ宣言のメリットとは？



(編集部)結婚とは違い、法的効力がないからこそ、宣言することに意味を見出せない当事者の方もいらっしゃると思います。ブルボンヌさんの思うメリットはどこにあると思いますか？

(ブルボンヌさん)宣言は私もゴールではないと思っているのね。今メディアでは権利の上での話が多いけれど、それだけじゃなく、自分の住んでいる場所が自分たちを公的に「日陰の存在じゃない」と認めてくれる。そんなエールのようなパワーがあると思う。宣言を実際にしなくても枠がある、というだけでね。どんどんこれが広がって当たり前になれば、当事者の気持ちも法律も変わるかもしれない。広がらないと次の段階が来ないからね。

大切なパートナーに悲劇が起きても「家族」じゃないから色々できないとか、そんな悲しい出来事が必要を痛感する人が多く出てくる前にたくさん広がってほしいな。



桃 色に咲き誇る「ど根性桜」

野市町中ノ村にある泉の親水公園に1本のシダレザクラがあるのをご存じでしょうか？約20年前、ごみが投棄され荒れていた土地を、三谷武さんと川北和夫さんの提案で旧野市町が公園へと整備。園内を彩ろうと50~60本のシダレザクラが植えられました。しかし、開花せずに苗木は枯れ、唯一生き残った1本を残し、ソメイヨシノに植え替えられました。生き残った「ど根性桜」は三谷さんらが世話をし続け、20年ほど経った今もなお、春の訪れを告げるようにソメイヨシノとともに花をつけます。「きれいなものがあると、誰もごみを捨てようなんて思わない。まちの力でつくりあげたこの公園を、ずっと守っていききたい」。公園を我が子のように見渡す三谷さん。ど根性桜の前でほころぶ笑顔を見せてくれました。